

## 不易流行

九州グラビア協同組合  
理事長 母里圭太郎



今年はどのような年になるのでしょうか。トランプ政権の政策の影響や、世界各地の対立による地政学リスクの顕在化により不確実性は増すばかりです。

昨年末、日産とホンダの経営統合へ向けての動きのニュースに世間がざわつききました。個人的には、発表間近の新型「プレリュード (PRELUDE)」の行く末が気がかりでした。自分で所有したことはないのですが、憧れの車のひとつです。

初代はおいておき、2代目 PRELUDE は 1980 年代の大人気デートカー。学生時代、友達 (男性) がこの車を手に入れたので早速、助手席に乗せてもらい、夜の町をとめどなく走り回っていました。

90 年代に入り、パプルの終わりがけの頃、友達 (女性) が 4 代目 PRELUDE を手に入れたので、早速助手席に乗せてもらいました。運転もさせてもらい、4WS (4 輪操舵) の運転感覚に酔いしれ、結婚に至ったのも良い思い出です。

月日は流れて、コロナ禍も落ち着いた一昨年あたりから、夫婦でスポーツ観戦等に行く機会が増えました。ピールのつまみに「柿の種」を持って行くのですが、ピーナッツだけがどんどん無くなってしまいます。「これはバランスを欠いた状態だ」と遠回しに文句を言うと、「私はピー専だ」と堂々と反論されます。根拠のない主張は米国の大統領のようです。

ピーナッツの無い柿の種を食べながら、思い出すのは寺田寅彦先生の随筆「柿の種」です。

古典的物理学の自然観はすべての現象を広義における物質とその運動との二つの観念によって表現するものである。

しかし、物質をはなれて運動はなく、運動を離れて物質は存在しないのである。自分の近ごろ学んだ芭蕉のいわゆる「不易流行」の説には、おのずからこれに相通ずるものがある。

(昭和二年五月、洪柿：青空文庫より引用)

人間は、自然界の森羅万象の運動を観察し物理法則をまとめあげ、ニュートン力学・電磁気学・熱力学は19世紀に完成し、すべての現象を定式的に表現できると考えられていました。20世紀に入り、相対論(アインシュタイン)を経て量子論(ボーア)により、「物質は粒子であると同時に波である」「物理法則は物質世界の運動を確率的にしか予測できない」との新しい解釈がもたらされ、古典物理学は限定的なものになりました。量子論は科学技術を大いに発展させ、パソコン・テレビ・携帯電話・半導体さらに核エネルギーなど多くの産業分野に影響を及ぼしています。寺田寅彦の慧眼は、物質と運動を別個に捉える古典物理学の限界を予言し、これを理論化していく考え方(相対論・量子論)と「不易流行」を結び付けます。

芭蕉が奥の細道の旅で体得した俳諧理念「不易流行」は、世の中が変わっても変わらない「不易」と、世の中の変化とともに変わっていく「流行」の相反する概念が根元において結合すべきというものです。それぞれを「物質」「運動」と置き換えると、芭蕉の世界と量子論の世界に遠大な思想の橋が架かります。

私達の業界における「不易」は、食品を包むソフトパッケージの存在そのものです。食品や日用品等のサプライチェーンの要となり、現代社会の生活を支えています。「食」を支えることにより「命」を支え、パッケージの保存性・利便性は「生活の質」を支えています。

一方、「流行」は、変わりゆく社会情勢—人口減少社会、環境問題 etc.への適応です。人口減少社会は人手不足や働き手の高齢化に直結するとともに、需要層の変化(高齢化、個食化)への対応も促します。環境問題に関しては、プラスチックに対する諸問題(GP JAPAN 2024年8月号、9月号巻頭言)がある一方で、環境対応が製品のアピールポイントとなってきています。

時代のニーズに適応しながら、ソフトパッケージの普遍的な価値を失わないようにしなければなりません。世の中に必要不可欠な私達の製品の供給のため「適正価格」を守りながら、不易と流行のバランスが取れた持続的成長を目指していければと思います。何事もバランスが大切だと、柿の種を齧りながら改めて感じました。

## 近畿経済産業局

## 2月17日に「価格転嫁サポートセミナー」を大阪で開催

近畿経済産業局は、2025年2月17日（月）午後1時30分～4時30分まで、「価格転嫁サポートセミナー」をマイドームおおさか8階第1会議室（大阪市中央区本町橋2-5）とオンライン（YouTube配信）によるハイブリッドで開催する。

中小企業をはじめとするすべての事業者向けに、価格転嫁の機運醸成および適正な価格転嫁の円滑化を目指すことを目的に、価格交渉・価格転嫁に関する国の施策説明や業界団体による価格転嫁促進ツール作成などの取り組み例、地域の産業支援機関による支援活動、価格交渉・価格転嫁の実践事例を通じて、企業が価格転嫁を実践するための企業体質づくりや価格交渉のポイントを紹介する。

参加費は無料。定員は会場50名、オンライン300名。申し込みは、[https://kinki-kakakutenka.go.jp/osaka\\_form/](https://kinki-kakakutenka.go.jp/osaka_form/)より。プログラムは以下の通り。

## &lt;プログラム&gt;

【開会挨拶】大阪商工会議所 産業部 部長 松本敬介氏

【制度説明】経済産業省の価格転嫁対策にかかる取組について  
近畿経済産業局 産業部 中小企業課 取引適正化推進室

【基調講演】取引適正化に向けた日本自動車部品工業会の取組み  
(一社)日本自動車部品工業会 業務部 課長 伊藤聡太氏

【事例紹介】地域の産業支援機関による価格転嫁対策の支援事例紹介  
大阪府よろず支援拠点((公財)大阪産業局)  
チーフコーディネーター 谷村真理氏



伊藤聡太氏

## 価格交渉・価格転嫁の実践事例の紹介

(株)奥谷金網製作所 代表取締役社長 奥谷智彦氏  
経理チーム 次長 中村圭一氏



奥谷智彦氏

【意見交換】価格転嫁を実現するための企業づくり、価格交渉のポイントとは  
(一社)日本自動車部品工業会 業務部 課長 伊藤聡太氏  
(株)奥谷金網製作所 代表取締役社長 奥谷智彦氏

【閉会挨拶】近畿経済産業局 産業部長 鈴木貴詞氏



申し込みはここから



今月の表紙



写真上段：1月17日に開催された全国グラビア協同組合連合会・関東グラビア協同組合、関東プラスチック印刷協同組合合同の新年賀詞交歓会の中締めで登壇した8団体の理事長。写真下段：会場の様子

2025年2月号 No.291 全国グラビア協同組合連合会

CONTENTS

巻頭言 不易流行 ..... ①  
九州グラビア協同組合 理事長 母里圭太郎

官公庁information ..... ③  
近畿経済産業局：2月17日に「価格転嫁サポートセミナー」を大阪で開催

全グラ  
全グラ・関グラ協組・関プラ協組：育成就労制度に全力対応、企業の存続を第一に。  
令和7年新年賀詞交歓会開催 ..... ⑥  
全国グラビア協同組合連合会：社員還元、設備改善に向け価格転嫁は不可欠。  
定例理事会を開催 ..... ⑫

組合員・単組の近況  
埼玉県グラビア協同組合：令和7年新年会を開催 ..... ⑭  
関西グラビア協同組合：新年賀詞交歓会開催 ..... ⑮

JFPI ..... ⑱  
(一社) 日本印刷産業連合会：2025年日印産連新年交歓会を開催

## Packaging ..... 21

東洋紡：

高耐熱性・易接着性を両立したOPPフィルム「パイレン EXTOP XP311」を開発

## Data Watch 2024年10月データ ..... 24

## 紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2024年11月... 30

## 酒は永遠の友 vol.1 ..... 34

田口 薫

## 賛助会員の話題 ..... 38

DMA Innotec 社製次世代型グラビア製版用電子彫刻機をオリオン商事が販売開始  
(株)オリオン商事 代表取締役 千明直也

## GP工場認定制度無料説明会のご案内 ..... 44

## GP認定制度申請についてのお願い ..... 48

## Information

JPI、3月7日、11日にWEBフォーラムを開催 ..... 43

JPI、4月25日に「第12回包装近未来シンポジウム」オンラインで開催 ..... 45

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円+税です。

購読および広告出稿を希望される方は、**全国グラビア協同組合連合会**まで。  
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発行：2025年2月10日  
 発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）  
 発行所：全国グラビア協同組合連合会  
 〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9  
 あさひ墨田ビル  
 TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814  
 編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）  
 下田幸二（同事務局顧問）、渡邊富美子（同事務局）、  
 酒井由香（同）  
 編集協力：(株)加工技術研究会  
 印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2025

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

全グラ・関グラ協組・関プラ協組

## 育成就労制度に全力対応、企業の存続を第一に 令和7年新年賀詞交歓会開催

2025年1月17日（金）午後3時半より、東京・ホテルニューオータニ「麗の間」において、全国グラビア協同組合連合会、関東グラビア協同組合、関東プラスチック印刷協同組合合同の「令和7年新年賀詞交歓会」が開催され、185名の組合員、賛助会員、来賓が一堂に会しました。



司会を務めた  
関東グラビア協同組合  
青年の原 卓実部長

司会を務めた**関東グラビア協同組合青年部の原 卓実部長**（三洋グラビア株）の開会宣言に続き、**全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長**（大日本パッケージ株）が次のような挨拶を行いました。

「あけましておめでとうございます。30年前の今日、阪神・淡路大震災が起き、関西の方々は大変な困難を味わいました。ある工場が全壊し、2階にあったシリンダーが全て1階の印刷機に落下したそうです。不幸中の幸いで別の場所で新工場を建設中でしたが、グラビアの命ともされる版が傷付けば印刷はできません。神戸出身の当時の野呂 裕理事長はグラビア校正機を無償貸与して支援しました。この企業は立派に再建されています。



田口 薫会長

さらに時代を遡ると70年前から軟包装業者が現れ、65年前のインスタントラーメン、スーパーマーケットによって、一気に包装流通革命が始まり、1964年の東京オリンピックで頂点に達します。しかし、企業が多すぎたため仕事の奪い合いになり、技術力のない安売り業者が次々と消えていきました。私は営業に出て、見積りや原材料の相場をせんべい会社の社長に教えていただいたものです。その時私は、この業界はなぜ原価を知らせてまで商売をするのかと驚きました。

私はこれまでも、諸悪の根源は流通にあるとお客様を批判していました。私たちサプライヤーは価格を抑えられ、印刷機の新設更新もままならず、気づけば国内の印刷機メーカーも3社になってしまいました。日立、東芝も業界の先行きを見て撤退しました。大規模流通が内部留保を増やしても、サプライヤーを痛めつけ潰してしまっただけです。日本経済はこのようにお金が中小から大企業に吸い上げられて、消費が盛り上がりず、若者



は将来を悲観し、モノ離れが進み、労働意欲も低下気味です。政府はこの点に気づき、中小企業の価格転嫁を強く支援するとのこと。それによって物価上昇を大きく上回る昇給につなげられるかが去年に続き、今後の私どもの運命を決定付けるポイントです。

先程、流通を悪く申しましたが、私たちにも問題があります。大量生産、安売りで会社は発展するという誤った昭和の常識が完全に消滅しておりません。以前は大手2社が競争して値を下げるから、中小は値上げを抑えられているといった誤った憶測の情報がありました。

松下幸之助さん、稲森和夫さんは10%の利益を上げなければ企業はやっていけないと言われていました。その言葉に耳を貸さず、大局観を持たず、目先の競争にこだる姿を古代中国の荘子は、『蝸牛角上の争い（かぎゅうかくじょうのあらそい）』と言いました。小さなカタツムリの左の角上の国と右の角上の国が争ったという話から、小さなもの同士のつまらない争いを意味します。2500年後の今も通用します。

もう1つ、『非理法権天（ひりほうけんてん）』という言葉があります。非は理に勝たず、理は法に勝たず、法は権力に勝たず、権力といえども天には勝てないという意味です。日本印刷産業連合会の歴 秀晴会長は天を見て判断されています。昨年度3回も外注先に手紙を送り、価格交渉に応じますからどうか希望を述べてくださいとお伝えになりました。今までの陥没価格を修正すべく、大幅な価格修正を打ち出され、もう1社も営業政策を大転換されて売上から利益に転換されています。皆さん、このトレンドに乗り、社員還元、設備改善、外注仕入先への配慮を徹底しましょう。つまらない誤報に踊らされず、企業の存続第一に努めましょう。

次に人手不足ですが、近年続く少子高齢化で若者が少なくなっており、労働条件の悪い会社には人が集まりません。休日数も年々増えます。労働時間規制もあり、生産力も落ちます。過剰品質要求で人手はかかる一方です。2年前とは全く条件が違うのに価格、特に

人件費上昇を認めない風潮は勇気を持って正していくべきです。

人手不足の即効的対策は外国人実習生です。印刷業界には 5000 人近くの人々が働いています。彼等がいなければサプライチェーンも止まりかねません。外国人技能実習制度がスタートしたのは 30 年も前です。オフセット印刷、ポリエチレンフィルムが早々と承認されていたようです。当時の関係者の先見性と努力に敬意を表したいと思います。

3 年後には今の制度に代わり、育成就労制度がスタートします。日本は諸外国と異なり、決められた業種に優秀な外国人を受け入れ、5 年、10 年、定住の段階で進めていきます。この制度は日本の問題点の解決の一助になるでしょう。私どもも新しい試みに全力を挙げて対応したいと思います。

ここで私が最も大切にしたいのは、母国を離れ、慣れぬ国で働く彼らの気持ちです。現代の日本人には想像もつかないことでしょう。私どもの会社で働くベトナムの人々を見ると、日本語力、マナーを現地できちんと教えられ、そして入国後 1 カ月は朝から晩まできっちり教育を受け、勤務態度は真剣です。

昔の日本人もそうだったのでしょ。昭和 30 年代、東北をはじめ地方から金の卵と言われた中卒高卒の子供たちが中小企業に就職し、日本の復興発展に大いに貢献したのは映画『三丁目の夕日』に描かれています。自動車修理工場のオヤジさんは働きに来た子供たちを家族同様に扱っています。今、当社にも自動車工場のオヤジのような社員が本当に親身にベトナム人実習生の世話をしています。私はこれが日本人の特徴だと思います。

奈良時代、高麗国の王族若光ら 1800 人、その他蘇我氏、秦氏など多くの渡来人が日本に住み、織物、鋼鉄器、陶器などに卓越した技能を發揮しました。古代の日本のように





優れた人々を招き入れる、それが国力の衰退に歯止めをかけることとなります。私たちは彼等に日本人社員同様、技術、ノウハウを教え、『一生もん』の仕事、グラビアを身に付け、生活の糧になるよう導くことです。やりがいを感じられる待遇が日本人にも外国人にも必要です。

私たちは未体験の外国人雇用に当面しています。試行錯誤で進むこととなります。外国人人材受入れの各社が受入れ機関として承認登録を受ける必要があります。条件として、推薦人と理事会での審議、外国人を好待遇で雇用できないと思われる安売り企業は承認しないなど、グラビア業界は血の通った会社として今後も継続してまいる覚悟でございます。どうか関係者の皆様、ご援助ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。また、この場にご参会の皆様のご健康とご多幸を祈念し、私の挨拶に代えさせていただきます。

## 海外人材確保、生業を継続できる世の中に



海江田万里氏

来賓を代表して、はじめに**衆議院議員の海江田万里氏**が「人手不足は日本全体が抱えている問題ですが、その中で優秀な人材を海外から招き、育て、業界全体の発展につなげていくことを石原さんとともに経産省に働きかけましたが、今後も皆様がしっかりと生業を続けていける世の中にしなくてはいけないと思っております」、続いて**石原伸晃氏**が「日本人は悠久の歴史の中で海外にも門戸を開き、社会の中で受け入れてきました。まさに日本の社会はこれから同じことをしていくこととなります。世の中は大きく変わっても日本人が代々受け継いでいる美徳があり、そういう気持ちがあれば新しい時代に日本に来た方々も会社のためにがんばろうと思っただけだと思います。こういった大切なこと、日本人の持つ素晴らしさ、寛容さ、国際性といったことをいかに次の世代に伝えていくかが重要ではないでしょうか」と述べました。



石原伸晃氏

## 叡智を集めて新たなイノベーションを



富士機械工業株の  
和田龍昌社長

賛助会員を代表して、**富士機械工業株の和田龍昌社長**が登壇し、挨拶を述べました。

「昨年を振り返ると、コロナ禍からの社会活動再開がさらに進み、消費マインドや経済が徐々に活性化してきたものの、企業生活、日常生活問わず、材料価格や物価の上昇の影響など、先行き不透明な状況が続く1年だったと実感しています。企業活動に目を向けると、人手不足、賃上げの要請のさらなる強まりが強く影響しており、様々

な施策、DX や業務改革を通じて持続的な成長をしていく必要性を強く実感する年になりました。

人手不足は年々深刻化しています。人手不足は、グラビア印刷のように技術、繊細な知識を利用する業界において業界全体の生産力、競争力に大きな影響を及ぼします。こうした課題を克服するために、若い世代への教育や研修の充実、職場環境改善、自動化や省力化、DX を通じた業務効率化などの施策を同時に行っていくなくてはならないと感じています。

さらに、環境問題もますます深刻化している中で、印刷工程における VOC 排出削減、再生原料を用いたフィルムの活用、印刷機器の省エネルギー化など、環境負荷低減のための取り組みは必須の課題となっています。

グラビア印刷は美しい色彩技術と高い生産力が武器です。それをもって食品パッケージや日用品、医薬品、化粧品、日常の多岐にわたる製品作りに貢献しています。しかし、人手不足のような課題が解決されなければ、このような強みが十分に発揮されることが難しくなります。また、業界全体の持続的な発展のためには、社会から求められる環境配慮や循環型社会への移行にも対応していく必要があります。このような厳しい局面を克服するために業界全体で連携し、新たな課題やニーズに対応していくことで、未来を切り開く原動力となると感じています。

本日お集まりの皆様の叢智を集めれば、必ず社会の持続につながる新たなイノベーションが生まれるものと信じております。我々賛助会員としても、業界に貢献できるよう皆様と協力して創意工夫をもってまい進していく所存です」

## 価格転嫁促進と取引適正に向けて



日印産連の  
緒方宏俊専務理事

来賓紹介に続き、乾杯の発声を務めたのは（一社）日本印刷産業連合会の緒方宏俊専務理事。「印刷業界は大変厳しい環境が続いていますが、今年もしっかり業界全体として価格転嫁の問題に注力して、価格転嫁促進と取引適正に向けて取り組んでまいりたいと思いますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます」との挨拶とともに杯を掲げ、歓談が始まりました。

## 素晴らしいグラビア印刷技術を後世へ

宴もたけなわ、全グラ 8 単組の理事長が登壇し、代表して関東グラビア協同組合の吉原宗彦理事長（東京加工紙株）が次のような中締め言葉を述べ、三本締めをもって午後 5 時、盛会のうちに終了となりました。

「いよいよ 2025 年がスタートし、今年の注目はなんとといっても大阪・関西万博かと思



左から、九州グラビア協組の母里圭太郎理事長（㈱平野屋物産）、関西グラビア協組の竹下晋司理事長（㈱ダイコー）、北陸グラビア協組の賀谷真尚理事長（賀谷ゼロファン㈱）、東海グラビア印刷協組の杉山真一郎理事長（富士特殊紙業㈱）、埼玉県グラビア協組の市村清一理事長（㈱ダイトー）、関東プラスチック印刷協組の石井 純理事長（㈱多漣堂）、関東グラビア協組の吉原宗彦理事長（東京加工紙㈱）、北海道グラビア印刷協組の若狭博徳理事長（㈱北海サンコー）



関東グラビア協組の  
吉原理事長

います。関西グラビア協同組合の竹下晋司理事長からも今年の全グラ青年部全国大会は大阪で開催し、万博を見学するという話がありました。楽しみにしております。

2025年は昭和で数えると100年。100年前の日本の人口は今の半分の約6000万人。社団法人東京放送局、今のNHKが東京の芝浦からラジオ放送を行ったのも100年前です。また、キューピーが初めて国産のマヨネーズを作ったということです。

我々のグラビア印刷はこうした出来事の数年前に毎日新聞がアメリカから、朝日新聞がドイツからグラビア印刷機を購入して、新聞印刷でしのぎを削っていました。それに続くように、凸版印刷さん、大日本印刷さん、共同印刷さんがグラビア印刷を次々に手掛け、当時、雑誌や書籍が伸びてきたこともあり、グラビア印刷が盛り上がり始めた黎明期だったと聞いております。

それから100年経ち、グラビア印刷は我々が手掛ける食品パッケージにシフトしました。こうした変化を我々がさらに発展進化させていくのではないかと思います。これから100年先、どのようになるか分かりませんが、素晴らしいグラビア印刷の技術をしっかり後世に受け継いでもらいたいと思います。

皆さんとともに我々の生活になくてはならないグラビア印刷、業界を一層盛り上げ、ともに歩んでいきたいと思ひます」

全国グラビア協同組合連合会

## 社員還元、設備改善に向け価格転嫁は不可欠 定例理事会を開催

全国グラビア協同組合連合会は、2025年1月17日（金）午後1時～3時10分まで、東京・ホテルニューオータニ「LAPIS」において理事会を開催した。当日は理事18名と顧問2名出席のもと、田口 薫会長が議長を務め、袖山高明専務理事の司会進行で下記の議題について議論した。



田口会長

冒頭、田口会長からは、「人手不足解消のために外国人労働者が長く働ける環境作りが重要だ。グラビアは人の手で作り上げる、人間的な業界。人を大切にできるかどうか、我々が生き残れるかどうかのポイントだと考える。大手企業も利益志向に変化しつつあり、当業界も価格転嫁を進めて、社員への還元、設備投資などを行っていかなくてはならない」と挨拶があった。

### 「定款」変更と「加入規約」制定について

袖山専務理事より、「定款」変更と新たに制定した「加入規約」や特定技能における会員証の発行などについて説明があった。



## ラミネート・スリット・製袋の特定技能職種指定に向けての活動について

ラミネート・スリット・製袋の特定技能職種指定に向けて実施されたアンケートの調査結果や日本ポリエチレン製品工業連合会の活動、経済産業省への陳情活動等について報告があった。

吉原宗彦理事より、ラミネート・スリット・製袋に関する今後の活動動向について経済産業省への陳情活動について説明があった。

## 「外国人技能実習評価試験」実績等について

都築晋平顧問より、「外国人技能実習評価試験」実績、監督官人員等について報告があった。現状、2023年は62回の試験、225名が受検、24年は64回の試験、218名が受検、25年は予定も含め69回の試験を予定しているとのこと。監督官については、「監督官経験者は11名、常時協力をいただいている方は関東で2名、東海で1名、関西で1名、九州で2名。こういった方々のおかげでなんとか試験ができている。ありがとうございます」とコメントがあった。

## 第55回通常総会について

袖山専務理事より、第55回通常総会について、2025年6月13日（金）にホテルニューオータニで開催予定との説明があった。



安永副理事長

## 価格転嫁、適正価格等について

安永研二副理事長、川田雄治理事より、フィルムメーカー等の状況や価格交渉等について情報が共有された。

出席理事・顧問	田口 薫会長（関東グラビア協組、大日本パッケージ㈱）	市村 清一理事（埼玉県グラビア協組、㈱ダイトー）
	安永 研二副理事長（関東グラビア協組、東包印刷㈱）	浮田 信也理事（東海グラビア印刷協組、大和産業㈱）
	竹下 晋司副理事長（関西グラビア協組、㈱ダイコー）	賀谷 真尚理事（北陸グラビア協組、賀谷セロファン㈱）
	若狭 博徳副理事長（北海道グラビア印刷協組、㈱北海サンコー）	織田 憲三理事（北陸グラビア協組、アートパックス㈱）
	杉山 真一郎副理事長（東海グラビア印刷協組、富士特殊紙業㈱）	奥田 拓己理事（関西グラビア協組、㈱北四国グラビア印刷）
	母里 圭太郎副理事長（九州グラビア協組、㈱平野屋物産）	高桑 真樹理事（関西グラビア協組、㈱ダイドー）
	大野 寿之理事（北海道グラビア印刷協組、極東高分子㈱）	中村 政晃理事（九州グラビア協組、㈱三裕商会）
	山下 雅稔理事（関東グラビア協組、㈱巧芸社）	袖山 高明専務理事（全国グラビア協同組合連合会）
	吉原 宗彦理事（関東グラビア協組、東京加工紙㈱）	都築 晋平顧問（全国グラビア協同組合連合会）
	川田 雄治理事（関東グラビア協組、トーヨー加工㈱）	下田 幸二顧問（全国グラビア協同組合連合会）

# 組合員・単組の近況

埼玉県グラビア協同組合

## 令和7年新年会を開催

2025年1月23日(木)午後5時より、ホテルメトロポリタン「ヴィーナス」において、埼玉県グラビア協同組合（市村清一理事長、(株)ダイトー）は、令和7年新年会を開催しました。

司会者の青野事務局長が開会を宣し、市村理事長が挨拶をしました。組合員4名と賛助会員6名出席のもと、久しぶりの宴ということもあり、和やかに時は過ぎました。今後の組合活動がさらに活発なものになることを期待し、新年会を終了しました。



挨拶をする市村理事長



新年会の様子

# 組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

## 新年賀詞交歓会開催

関西グラビア協同組合（竹下晋司理事長、ダイコー㈱）は、2025年1月24日（金）午後6時から大阪市北区のANAクラウンプラザホテル大阪（万葉西中の間）において、新年賀詞交歓会を開催しました。多くの会員企業の皆様、日頃お世話になっている関係機関からご来賓の方々をお迎えし、総勢140名にご出席いただきました。



竹下晋司理事長の開宴挨拶

堀川 孟青年部副部長の司会によって進行し、開宴に際し竹下理事長が、ご来賓の皆様にご臨席いただけたこと、多数の組合員・賛助会員にご参集いただけたことに謝意を示すとともに、「先週金曜日に全国グラビア協同組合連合会で新年賀詞交歓会が200名規模で開催されました。田口 薫会長が常日頃おっしゃる『安売りを止め適正な価格転嫁をしよう』という提言は実現しつつあります。今回のお言葉で心に残ったのは、過剰品質についてです。我々業界では、ある意味で異常品質とも言えるほどの過剰な品質

を突き付けられ、使えるものをわざわざ捨てている現状があり、その状況を皆で無くしていこうというものです。環境省では食品ロスを半減するとの目標を定め、その目標達成に向けた取り組みが行われています。食品ロスが減る＝焼却場でゴミを燃やさない、使えるものを最後まで使っていき、そういう時代に突入しつつあるのではないかと考えています。インフラ的な役割を多く担う我々業界でも、その考えに追従していきたいと思っています。

昨今、我々業界では海洋プラ問題で大きな逆風が吹きましたが、潮目が変わったと感じています。一例として、スターバックスコーヒーがプラスチックストローを紙ストローに変更しましたが、現在では紙ストローからバイオプラスチック製のストローに変更されています。三井化学㈱の試算結果によると、紙ストローの製造過程で排出されるCO<sub>2</sub>はプラスチックストローと比べて数倍になります。これは、紙ストローがエコなイメージを与える一方で、実際には環境に対してポジティブな効果が限定される、いわゆるグリーンウォッシュと呼ばれる現象だということです。こういったことが少しずつではありますが、世の中にアピールできているのではないかと。今後、我々はそこにプラスして次の段階、過剰品質というステージで闘っていかねばならないと思っています。

GP JAPANにも掲載されていますが、我々業界では多くの企業が外国人を雇用しています。今回、区分追加された特定技能制度、近々始まる育成就労制度などにより外国人雇